

全日本学生少林寺拳法連盟における協賛金獲得活動の促進に向けた提言

Recommendation for promoting the sponsorship
to All Japan StudentsShorinjikempo Federation

1K10C052-0 稲留 雅人
指導教員 主査 平田竹男先生 副査 中村好男先生

【背景】

著者は全日本学生少林寺拳法連盟の運営に携わる中で基盤となる加盟者個人から集める収入が減少し、団体全体の資金不足を経験した。これは、自身の卒業後も続く課題であると感じ、解決策を模索した結果、大会時における協賛金に可能性があると感じた。そこで、全日本学生少林寺拳法連盟の協賛金獲得活動を促進させたいとの思いから本研究を開始した。

【目的】

本研究は全日本学生少林寺拳法連盟の協賛金獲得活動の促進に必要な施策の提言を目的とする。

【方法】

I. 調査手法

他学生団体の協賛金収入状況調査と既存及び未協賛元そして調査団体運営者への意識調査の三つを行った。

II. 調査対象

学生団体（主にスポーツの学生連盟）現在の少林寺拳法学生大会への協賛元及び未協賛元関東学生少林寺拳法連盟の委員を対象としてそれぞれ調査を行った。

【結果】

表 1. 他団体調査

	協賛企業数	中心的な属性	提供利益の種類	収入に占める割合(概算)
陸上	4	一般企業	多い	100%
ハンドボール	15	関連企業	少ない	非公開
ウエイトリフティング			協賛金活動の実施なし	
柔道	7	一般企業	少ない	10%
少林寺	17	関連企業	少ない	30%
剣道	7	関連企業	少ない	10%
弓道	27	関連企業	少ない	非公開
合気道	17	関連企業	少ない	非公開

表 2. 既存協賛元調査

	協賛の目的	目標の達成状況	学生連盟への要望
関係団体	繋がり	満足	運営発展
関係者	支援	満足	運営発展
非関係団体	就活	不満	利用
非関係者	販促	不満	利用

表 3. 未協賛元調査

	見送りの要因	協賛の意思	学生連盟への要望
関係団体	他要素での支援	有り	運営の発展
関係者(経営者)	額の大きさ	有り	提供利益の選択肢
関係者(個人)	慣例の無さ	無し	団体の自立

表 4. 運営者意識調査

	協賛金活動への満足度	発展の可能性のある対象	阻害要因
委員長	低い	団体	企業側の敬遠
担当者	高い	個人	枠の大きさ

【考察】

他学生団体の協賛金収入容共調査では、大会に関わる人が多くなるに連れて協賛先としての魅力が向上し表のような結果が導かれているだろう。既存協賛元の調査では、少林寺拳法の発展と自社の発展の優先度の違いによって、未協賛元の調査では、広告

掲載の効果測定の難しさから表のような結果が導かれているのだろう。運営者の意識調査では、団体を代表する対場とパンフレット制作活動に専念する二者の意識の違いにから表のような結果が導かれているのだろう。

【提言】

以上の考察を元に、本論文の目的である全日本学生少林寺拳法連盟への提言を3つ行う。1つ目は団体内部の分析である。これにより大きな協賛金を受け入れる確固たる基盤の構築と対応力の養成が可能となる。2つ目は団体外部の分析である。これにより、協賛金獲得の継続と開拓が可能となる。3つ目は協賛金獲得活動に特化した担当者の確立である。これにより、協賛金を獲得する仕組み自体の構築と促進を図れる。

そして、この提言を元に2つの具体的な施策を述べる。1つ目は、「広告枠の刷新」である。具体的には、協賛元の規模に合わせた値段帯の提案と広告掲載以外の利益提供である。2つ目は「協賛担当者の変更」である。具体的には、幹部職への業務の組み込みである。

【結論】

所属している全日本学生少林寺拳法連盟が抱える財政難と協賛金不足について、自身の学ぶスポーツビジネスの知識と照らし合わせる中で気がついた問題点に対して調査を行った。他の学生団体の実情を調査することで少林寺拳法の関連団体が協賛元に占める割合が多いという問題点をより明確に浮き彫りにすること出来た。未協賛元に対する阻害要因調査と、既存の協賛元が何を目標としているかとなっているかの調査を行うことで、協賛金活動獲得に必要な施策の策定が行えた。運営者の意識についての調査を行うことで、協賛金の獲得を促進させる仕組みづくりを考察することが出来た。

また、調査の結果この課題は他の学生スポーツ団体の抱える課題であることも調査を通じて明らかとなった。しかし、この問題に対して多くの少林寺拳法連盟の所属委員が危機感を抱いている印象は感じられず、そもそも協賛金への興味や知識の欠如が伺えた。そこで著者は、3つの改革のポイントと2つの施策を提言することで、全日本学生少林寺拳法連盟委員の持つ協賛金への認識改善と、活動促進がなされることを願ってやまない。加えて全日本学生少林寺拳法連盟の取り組みが、多くの学生スポーツ団体（特にマイナースポーツ団体）が参考とするモデルケースとなる日が訪れることを心より期待している。